

1歳6ヵ月





1歳6ヵ月健診を終えられた皆さんへ

- 1歳6ヵ月にもなると、もう「赤ちゃん」ではありません。歩くこともだんだん上手になり、積み木をつんだり、クレヨンで紙になぐり書きをしたり、手のはたらきも少しずつ器用になってきます。ことばもだんだんはっきりし、数も増えてきます。運動能力や知恵が進んで、一人前の人間に近づいてきたこの頃ですが、同時に、親に甘えたい気持ちもまだまだ強い時期です。言ってみれば、「自立」と「依存」の間を行ったり来たりしている時期。自分でやるんだという気持ちを邪魔せずに、いろいろなことをやらせましょう。同時に、甘えたいときはたっぷり甘えさせてあげましょう。

個性がはっきり出てきます

- このころになると、人間の個性、個人個人の違いというものが、はっきり出てきます。発達の面でもそうです。健康なこどもの発達は、高度なものになればなるほど個人差があり、首のすわる時期はみんなたいして違いはありませんが歩くとか、言葉を使うとか、複雑なものになると、ずいぶん違いが出てくるものです。早く歩いたから足が速くなるわけでもないし、ことばが遅いから将来ことばがうまく使えないわけでもありません。
他のこどもと比べて発達が早い・遅いと気にすることには、あまり意味はありません。
- 1歳頃にもう歩いていた子は、このころにはもうずいぶん上手に歩いています。最近になってようやく歩き始めた子もいるはず。そんな子の歩き方は、上手な子に比べるといかにもおぼつかなく見えます。
でも大丈夫。半年もたてば見分けが付きません。



- 「ことば」はさらに個人差の激しいもの。もうかなりいろいろなことを話す子もいますし、何を言っているのかははっきりしない、意味のわかる言葉は三つ四つしかない、という子も。こどもが声を出してコミュニケーションをしようとし、おとなに言われたことがわかって行動しているようなら、まず心配はいらないものです。

すすみが早い遅いも、個性です。
それなりのよさがあるのです。

- こどもの好むことも様々です。
音楽にじっと聞き入ったり、リズム合わせてからだを動かす子。
クレヨンをわたすとひとりでいつまでも何か描いている子。
絵本や紙芝居をじっと見ている子。
あっという間に外に飛び出していく子。
さまざま。
好きなことにはある程度の時間、集中して飽きなくなりますが、嫌いなことをじっと我慢することは、もちろんできません。
危険なことにならないように配慮しながら、好きなことをじっくり落ちついてできる環境をつくってあげるのが、この時期のいちばんの「教育」と言えるでしょう。



自分でできること



- 服を脱いだり、スプーンで食事をしたり、おとなと同じような行動をしたがります。脱ぎ着のしやすい服を着せ、ボタンをはずしてあげるなど、難しいところは手伝いながら、自分で脱げるようにしましょう。
食事は、きれいに食べること・たくさん食べることよりも、「自分で食べられる」ことが大切。たくさん残ってしまいそうなら、最後に少しおとなが食べさせてあげてください。

好きなことに落ち着いてとりくむ
その姿を楽しみましょう

- 暖かい季節なら、トイレトレーニングに挑戦してもいいでしょう。普段からおしっこの間があいている子なら、時間を見計らって便器にすわらせれば成功するかもしれません。逆に普段のおしっこの回数が多い子は、おもらしの確率も高くなります。
- トイレトレーニングのコツは、とにかく怒らないこと。こどもが嫌がって便器にすわらないようなら、すっぱりあきらめ、2～3週間たってからまた挑戦しましょう。おしっこを教えたら、たとえ出てしまっている、ほめてあげましょう。
- 尿意（おしっこがしたいという気持ち）がはっきりするのは、2歳すぎだといわれています。また、膀胱にどれだけ尿をためていられるか、その発達もたいへん個人差の大きいものです。排泄の自立は、時期がくれば必ずできるものですから、あせらずに。
寒い時期はおしっこの量が多くなりますから、トイレトレーニングを始めるのはやめたほうがいいでしょう。

コツは、怒らないこと。
成功しなかったら、またあとで。

夜寝る前には



- 昼間は何でも自分でやりたがる子も、夜寝るときになると甘えたくなるのが普通です。ふとんに入れば目をつむり、すぐに眠ってしまう、ということはまずありません。
しばらくは側にいて、お話をしたり、絵本を読んだりしてあげましょう。
寝る前だけおっぱいを欲しがったり、ほ乳びんを離せない子もいます。
それで安心して眠れるのなら、続けていてかまいません。おっぱいやほ乳びんの代わりに、指やタオルをしゃぶることもあります。
こうした「くせ」も、特に心配なものではありません。

おもしろいくせがあったことを
いつか話してあげたい

ゼロゼロする子

- 風邪をひくと何だかゼロゼロする、咳が長引く、というこどもは、この年齢では少なくありません。中には、はっきりとアレルギーの体質があり、3歳頃までに「喘息」と診断されるような子も混じってはいますが、大部分の「ゼロゼロする子」は、逆に3歳ごろまでにそういうことがなくなっていくます。
- 乳幼児は鼻や気管・気管支の粘膜が敏感で、分泌物（鼻水や痰）もおとなに比べて多いうえ、風邪をひく機会も多いため、ゼロゼロしやすいのです。
多少ゼロゼロしているようでも、けろっとしていて元気があり、夜もぐっすり眠れているようなら、あまり心配はいりません。咳が激しくて吐いてしまう、夜目が覚めてしまう、というようならば、きちんとした治療が必要ですから、早めに相談を。



体重が減る・増えすぎる

- 夏になると食欲が落ちて、あまり食べ物を受けつけなくなることがあります。体重も増えないか、減ってしまう子もいます。これは一時的なもので、涼しくなればまたもとに戻りますからご心配なく。

逆に、いつでももりもり食べて、太り気味になってくる子もいます。おとなになってからの肥満につながるのは、この時期からの食習慣。成長期に「ダイエット」は必要はありませんが、栄養のバランスは大切です。

スナック菓子や甘いもの、ジュース類を与えすぎていないか、食べているものをチェックしてみましょう。外に出てからだを動かすことも大切です。



事故を防ごう

- 運動能力が増し、行動範囲が広がった分、事故の危険もまた大きくなります。
ドアの鍵を閉め忘れていたり、一人で外に出て行って交通事故にあったり川などで溺れたり。油断はできません。
- もっとも多い事故は、高いところからの転落。頭を打った場合、48時間は特に注意が必要です。直後には何でもないようでも、何度も吐いたり、すぐにくたうとうとしてしまう、ひきつける、立って歩けない、などの症状が出てくるなら急いで脳外科へ。1週間ぐらいたって症状が出ることもあるので、気をつけて見ていきましょう。
- 転落の次に多いのが火傷。
「熱いから気をつけて」はこどもには通用しません。こどもの手の届くところに熱いものは置かないこと。もし火傷したら、まずとにかくすぐに冷やします。水道の水を流しっぱなしにして10分。洋服は脱がせない（かえって皮膚を傷つける）。火傷の範囲が広がったり、皮が剥けているようなら、何も薬などはつけずに清潔なガーゼで覆って皮膚科か外科へ。

火傷（やけど）

すぐに冷やす

水道の水を流しっぱなしにして10分

洋服は脱がさない

火傷の範囲が広がったり、皮が剥けるようなら

薬などはつけずに清潔なガーゼで覆って皮膚科か外科へ

小さい火傷で赤くなっている程度なら
家庭で様子を見ていてもいいのです。

- 飲み込み事故の多いもの
おとな用の錠剤・殺虫剤・防虫剤・白髪染め・漂白剤・柔軟剤・トイレ用洗剤
灯油やベンジン・農薬・マニキュアの除光液・ボタン電池・2cm以上のタバコなど。

これらを飲んだらすぐに救急病院で処置を受ける必要があります。

よくわからないときはメーカーに電話するか

中毒110番（029-852-9999 無料）へ

Check List チェックリスト



1. 階段に転落防止のための柵を使用していますか？

はい いいえ

2. テラスや窓の側に踏み台となるようなものを置いていますか？

いいえ ときどき はい

3. こどもの口に入るような小物は手の届かない場所に置いていますか？

はい ときどき いいえ

4. 家族の薬はこどもの手の届かない場所に保管していますか？

はい ときどき いいえ

5. こどもの手の届く食卓に熱い物を置いていますか？

いいえ ときどき はい

6. ストーブやヒーターなどの熱い部分にこどもが触れないようにしてありますか？

はい ときどき いいえ

7. 入浴槽に水を溜めておくことがありますか？

いいえ ときどき はい

8. こどもがひとりで浴室に入ることがありますか？

いいえ ときどき はい

9. 小児用安全シートを使用していますか？

はい（車は使用してしない） ときどき いいえ

10. 自動車の中にこどもをひとりにしておくことがありますか？

いいえ（車は使用しない） ときどき はい

解説



1歳6ヵ月

わかっているようでも、わかっていないのです

- 歩くのが上手になり、行動範囲もますます広がります。よじ登る力がついてくるので、転落事故の危険が増します。
こどもによってはことばの出ってくるが早く、何でもわかったような口をきいて、危険なものも言い聞かせればわかると錯覚することもあります。この年齢ではまだ言っても聞かせても理解していません。
危険なものには近づけないようにするのが第一。

1. 階段に転落防止のための柵を使用していますか？

1～2歳のこどもでは階段からの転落事故が多くみられます。自分で上れるようになるので、危険も増しています。階段に柵を付け、いつも閉めておく、階段の側では遊ばせない、などが大切です。
階段の昇り降りの際は、必ず手をつなぐか、おとなが下側にいるようにして転んでも支えられるようにしましょう。

2. テラスや窓の側に踏み台となるようなものを置いていますか？

ちょっとした踏み台があると、よじ登ってベランダから体を乗り出したり、窓から下を見おろしたり。こどもは頭が重いため、バランスを崩して高いところから落ちることが多いのです。
踏み台になるようなものはベランダや窓の側には置かないこと。

3. こどもの口に入るような小物は手の届かない場所に置いていますか？

まだまだ、口に入れていいもの・いけないものの区別はつきません。
口にもものを入れて遊んでいるうちにのみこんでしまったり、のどに詰めたり。スプーンや歯ブラシを口に入れたまま歩いて転び、口や喉にけがをすることも。こどもの口に入るような、直径3.5cm以下のものはこどもの手の届くところに置かないこと。外出先でも、あっと驚くようなものを口に入れてしまうことがありますから注意しましょう。

4. 家族の薬はこどもの手の届かない場所に保管していますか？

何でもおとなの真似をしたがります。おかあさんの風邪薬、おじいちゃんの血圧や糖尿病の薬など、飲んだ後に手の届くところに置いて置くと、こどもが飲んでしまいます。おとなの薬の量はこどもにとっては危険な量で、場合によっては命にかかわります。薬はこどもの手の届かないところに置きましょう。冷蔵庫にしまったシロップ剤を、ジュースだと思っていっぺんに一週間分も飲んでしまったという事件もよく見られます。冷蔵庫にしまうときも、こどもの手の届く範囲には入れないようにしましょう。

5. こどもの手の届く食卓に熱い物を置いていますか？

テーブルの上に置いたお茶やコーヒー、カップラーメンなど、こどもは何でもさわりたいがります。こぼして火傷する事故があとを絶ちません。熱い飲み物や食べ物がおいてある時は、こどもから目を離さないこと。

6. ストーブやヒーターなどの熱い部分にこどもが触れないようにしてありますか？

「熱くて危険」ということは、まだこの年頃のこどもにはわかりません。加熱するような暖房器具にはこどもが近づけないようにしましょう。ストーブの上にやかんなどを置くのもたいへん危険です。

7. 入浴槽に水を溜めておくことがありますか？

8. こどもがひとりで浴室に入ることがありますか？

ほんの浅い水でも、こどもは溺れます。残り湯の入った浴槽のふたの上に乗っていて、ふたがたわんだ隙間から浴槽に落ち、溺れる例もあります。湯船にお湯をためておかない、風呂のふたは材質のしっかりしたものを選ぶようにしましょう。こどもだけで浴室で遊ばせたり、入浴中に目を離すことのないよう、注意しましょう。





9. 小児用安全シートを使用していますか？

急停車したとき、体重の軽いこどもは、座席から飛び出してしまいます。
こどもを乗せる時は必ずチャイルドシートを。
窓から顔や手を出さない、ドアロックを確実にする、のは基本の基本ですね。

10. 自動車の中にこどもをひとりにしておくことがありますか？

毎年、夏になると、車の中に置き去りにされたこどもが脱水症状になったり、亡くなったりする事故が多発しています。
車の中はほんの少し日が照っているだけでも40～50℃まで簡単に気温が上がってしまい、大変危険です。短時間でもこどもを車の中に残しておくのはやめましょう。

